

《担当者名》長谷川 聡 (非) haseg@hoku-iryo-u.ac.jp

### 【概要】

国内外の行政統計や調査研究データが電子化され、加工利用可能な一次資料としてネット上で公開されている。本講ではこれにアクセスして「データに基づく/根拠のある地域福祉課題を発見して説明する」情報リテラシーをスキルアップすることを目的とする。併せて情報化社会における地域福祉課題について検討する。

### 【学修目標】

- 1) データに基づく地域アセスメントとニーズ発見の手法を実行できる
- 2) 地域福祉における情報化の価値と意味を説明できる
- 3) 地域福祉に関連する情報を取り扱い分析評価できる
- 4) データサイエンスの概要と手法を説明できる

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバス詳細説明と本講のすすめ方 受講学生のニーズ確認 データサイエンス概説	長谷川
2 }	データ活用の知識と技術	事例考察1「さっぽろ統計情報」 概説・統計読解・資料加工技術演習	長谷川
3			
4 }	データ活用の知識と技術	事例考察2「Our World in Data」 概説・統計読解・解説文クリティーク	長谷川
5			
6 }	地域福祉情報活用演習(全体)	オープンデータによる情報処理演習 (地域特性、地域課題)	長谷川
7			
8 }	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習の対象と課題の討議による選定 オープンデータ入手と前処理	長谷川
9			
10 }	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習課題の実施経過報告と討議	長谷川
11			
12 }	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習課題のプレゼンテーションと討議	長谷川
13			
14 }	地域福祉情報の実際	ネット情報と文献のクリティカルブラウジング・クリ ティカルリーディング	長谷川
15			

### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

授業への参加状況(討議発言、プレゼンテーション、リアクションシート記入)70%、レポート課題30%により総合的に判断する。リアクションシートとレポートはオンライン提出とし、コメントを付けて返却する。

### 【教科書】

使用しない。演習教材としてネット公開されている「さっぽろ統計情報」「Our World in Data」をほぼ毎回利活用するので、情報ツールを常時携帯すること。

#### 【参考書】

はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス・保本正芳著・noa出版(2022)  
域福祉情報論序説「情報化福祉」の展開と方策・森本佳樹著・川島書店(1996)  
地域の 実践 を変える社会福祉調査入門・笠原千絵編著・春秋社(2013)  
文系のための統計学入門-データサイエンスの基礎・河口洋行著・日本評論社(2021)  
Rによるテキストマイニング入門・石田基広著・森北出版(2014)  
そのほか講義時に資料を適宜配布する

#### 【学修の準備】

表計算アプリの基本操作、すなわち表作成、式計算、記述統計関数利用、グラフ作成をできることが望ましい。統計関連では基本統計量(平均、ばらつき、相関)と回帰分析の知識があれば良く、なければ予習しておく。データベース関連では医中誌Web、JSTの各種ファイルおよびJ-Stageによる邦文文献検索ができると良い。準備時点で独学、自学自習が困難な場合は事前の個別相談に応じるのでメール連絡する。希望があれば講義開始後にスキルレベルに合わせて個別指導する。